

将来の土木事業を担う高校生への橋梁点検研修会を開催 ②

○高度経済成長期以降、集中的に整備された多くの橋梁やトンネルなどの道路インフラでは、高齢化・老朽化が進んでいる状況です。道路インフラの維持管理方法については、計画→**点検**→診断→設計→工事というメンテナンスサイクルを確実にかつ効果的にすることで、道路インフラの損傷や変状に対する早期発見や長寿命化につなげていき、健全な道路構造物を維持・管理していくのが非常に重要となっています。

○「令和7年度 愛媛県道路メンテナンス会議」において、将来の土木事業を担うことが期待される伊予農業高等学校の1年生を対象に、道路橋の老朽化の現状やメンテナンスの重要性について理解を深めていただくために、橋梁の損傷原因や損傷の種類、点検方法を学ぶ、「橋梁点検研修会」を開催しました。

※今回、赤字部分を実習として実施

【開催概要】

■日 時:令和8年3月12日(水) 9:00~12:00

■実習会場:森松高架橋(上り)

(国道33号 松山市森松町)

■出席者:松山工業高等学校

土木科1年生 40名

(松山河川国道事務所 2名 他)

■研修内容

●説明(点検概要の説明)

- ・対象橋梁の概要
- ・橋梁構造の概要
- ・維持管理プロセスの説明

●実習(コンクリート橋における点検実習)

- ・上下部工のひびわれ(クラックスケール)、うき(打音検査)はくり(目視点検)、漏水(目視点検)、遊離石灰(目視点検)の損傷や変状等の確認
- ・シュミットハンマーによるコンクリート強度測定
- ・鉄筋レーダーによる鉄筋位置の確認
- ・構造物の寸法測定



概要説明状況



シュミットハンマー測定状況



鉄筋レーダー使用状況



打音検査状況